School of ACT 2012 年度報告書

ユース ACT プログラム実行委員会　チーム ACTeer

目次

- School of ACT とは・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 今年度のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 高校生メンバー紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- いじめチーム活動報告・・・・・・・・・・・・・ 6～7
- 防災チーム活動報告・・・・・・・・・・・・・・ 8～9
- 報告会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 高校生の BEFORE＆AFTER・・・・・・・・・・・ 11
- 高校生の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 大学生の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 活動に関わった方のコメント・・・・・・・・・・ 14

～ごあいさつ～

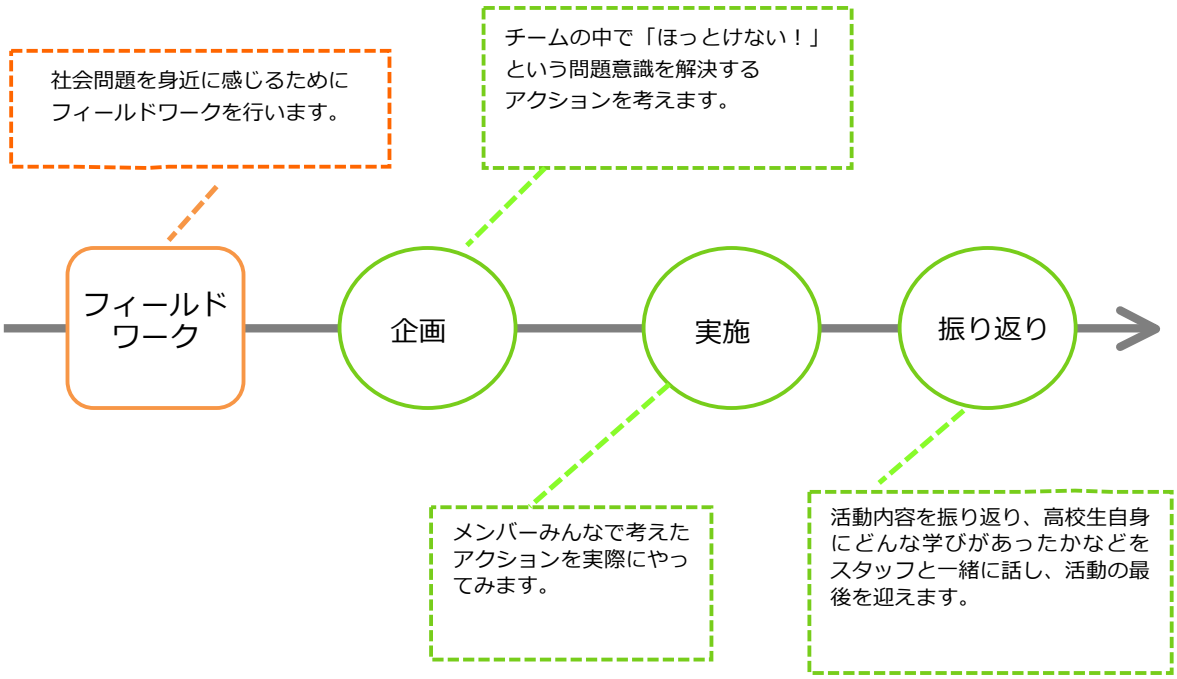
2012 年度の報告書を手にとっていただき、ありがとうございます。今年度は参加する高校生に寄り添うことを意識して、現場の声を聞くフィールドワークなどを行いました。これによって、高校生たちが今までの生活の中で気がつかなかったことを感じる機会を持つことができました。今年度、協力していただいた方々や各学校の先生方、保護者様に感謝しております。

2012 年度チーム ACTeer 代表　井上 栞

School of ACT とは

高校生の間から社会問題に当事者意識を持ち、社会に対して自分ができることを考え、行動に移す若者を育てることを目的としています。今年度の目標は、10 人の「なにかやってみたい」と思っている高校生を集め、社会問題に対して当事者意識を持つこと、社会に対して自分ができることを考えること、参加高校生全員が社会問題に対する取り組みを最後までやりきることとしました。

京都市内の高校生が、ワークショップを通して(地域)社会に対する自己の問題意識に気づき、その気づきに立脚しながら(地域)社会の課題を解決する企画を立案します。その上で、ニーズや既存取組に関する調査等を行い、企画内容をブラッシュアップさせます。今年度の社会の課題として「いじめ」と「防災」を高校生に提示し、高校生自身が問題意識を持ったテーマを選び、その課題に取り組みます。スタッフは高校生の企画が順調に運営できるように、日常のサポーターとして活動に携わります。



ユース ACT プログラム実行委員会　チーム ACTeer とは…

私たちは、若者が自ら「社会」に参加・参画する世の中を目指しています。そのために、高校生の間から社会問題に関心を持ち、社会に対して自分ができることを考え、行動に移せる若者を育てたいと考えています。チーム ACTeer は、京都市内の NPO 等で構成されたユース ACT プログラム実行委員会の学生プロジェクトチームとして、活動しています。

今年度のスケジュール

10 月　プレイベント「みんなでパーティー」@北青少年活動センター

School of ACT への参加を考えている高校生を対象に、社会問題を解決するゲームなどを通して、活動の雰囲気を味わってもらいました。プレイベントに参加した高校生のうち、3 人は School of ACT にも参加してくれました。

オリエンテーション @中京青少年活動センター

School of ACT に参加した高校生のみんなが初めて顔を合わせる場となりました。スタッフが設定した「いじめ」と「防災」のテーマに関する情報を共有し、これからの活動への期待などを話しました。

11 月　フィールドワーク @東山いきいき市民活動センター

NPO 法人チャイルドライン京都（いじめ）の方々と、語り部 KOBE1995、NPO 法人さくらネット（防災）の方々にワークショップを行っていただきました。

テーマ決定 @学生 Place＋

高校生が興味関心のあるテーマを 1 人 1 つ選びました。「〇〇という状態を〇〇に変える」というフレームにそれぞれの思いを書き込み、どんなことに興味を持っているかを話しました。

企画立案合宿 @宇多野ユースホステル

2 つのチームに分かれて企画を作るワークショップを行いました。みんなのやりたいこと、求められているもの、使える資源の 3 つを考えながら、具体的なアクションを考えました。

12 月　ミーティング

合宿では決めきれなかったことについて話し合いました。

スクーリング @ひと・まち交流館京都

ユース ACT プログラム実行委員の方に、今回考えているアクションを発表し、アクションへのアドバイスを頂きました。

1 月　ミーティング

スクーリングでいただいたコメントや活動を続ける中で見えてきた疑問や関心を手がかりに、アクションの具体的な内容を話し合いました。

企画実施

インタビューやまちあるきなど、高校生が考えたアクションを実行に移しました。

2 月　振り返り

4 ヶ月の活動内容と、自分自身の成長を振り返りました。

3 月　報告会 @ひと・まち交流館京都

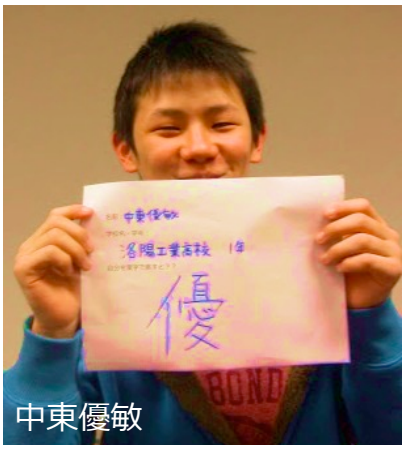
高校生が今年度の活動内容や、活動の中で頑張ったことや大変だったこと、成長できたことなどを発表しました。参加者の高校の先生や、企画実施に関わっていただいた地域の方、この活動に関心を寄せる方が会場に集まりました。

高校生メンバー紹介

いじめチーム

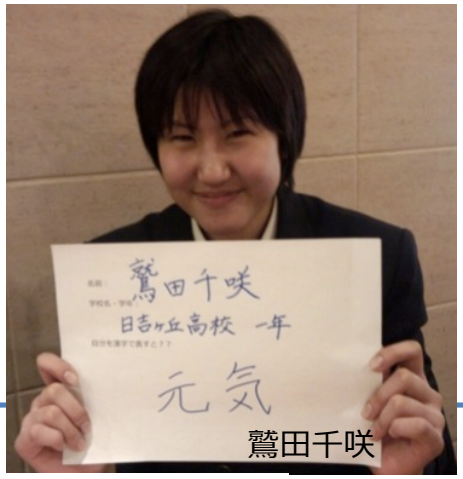
1、名前
2、学校名・学年
3、自分を漢字で表すと？

小松雅奈

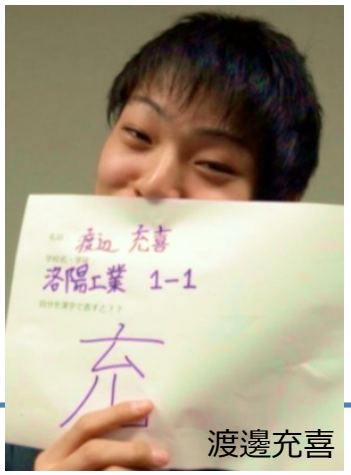


中東優敏

藤上郁弥

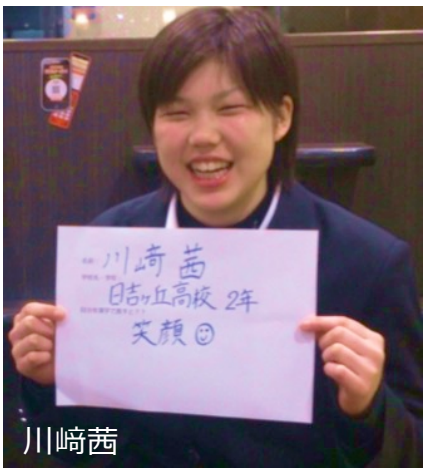


鷲田千咲

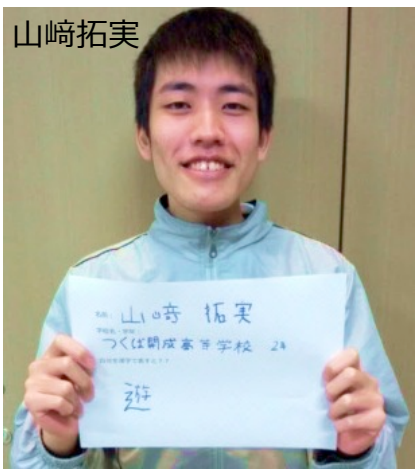


渡邊充喜

防災チーム



川﨑茜



山﨑拓実

いじめチーム活動報告

※いじめチームには日吉ヶ丘高校と洛陽工業高校の生徒が参加しましたが、お互いの日程が会わなかったため、それぞれで企画づくりを進めていきました。

小松雅奈さん・鷲田千咲さん

中東優敏くん・藤上郁弥くん
渡邊充喜くん

11 月 3 日　フィールドワーク

NPO 法人チャイルドライン京都の方から活動内容を聞いたり、「自分も仲間も大切にすること」について考える時間を持ちました。お話の中で出された「孤独を感じている子が 5 人に 1 人いる」という調査結果には、みんな驚いた様子でした。

11 月 10 日　テーマ決め

「いじめ」をテーマに選んだメンバーは、過去に実施したされたアンケートの「いじめの件数の割合は 1000 人に 1 人」という結果を見て、「ほんまはもっと多いはずや！」という意見を出していました。

11 月 17～18 日　企画立案合宿

「いじめってどこから？」「誰が悪いんやろう？」というテーマで素直な意見を出し合いました。「いじめている人が悪い！傍観者が悪い！いやいや先生が悪い！」それぞれ怒りの矛先が違っていましたが、みんなで話し合った結果、先生も巻きこんで学校全体を変えなければいけないのではないかという仮説を立てました。「高校生だからこそリアルな声が聞けるのではないか？」そんな思いから出来上がったのが、自分たちでアンケートを作り、配布し、いじめに対する意識を変えてもらおうという案です。

アンケート実施のお願い

学校でのアンケート調査が実施可能かどうかを直接校長先生に聞きに行ったところ、アンケートの内容次第で判断するという回答でした。

小松雅奈さん・鷲田千咲さん

中東優敏くん・藤上郁弥くん
渡邊充喜くん

ミーティング

それぞれのチームがアンケート作りを進めましたが、ミーティングになかなか集まれない状況が続いていました。こうした流れの中で、スタッフ内でもう一度アンケートというツールについて検証した結果「これで本当に彼らが聞きたい「リアルな声」が聞けるのか？」という疑問が出てきました。そこで、いじめに対するインタビューを学校で実施してはどうか？と大学生スタッフが提案したところ、高校生の思いとも一致したので、その案を具体化していきました。

2 月 13 日　実施「インタビュー」

日吉ヶ丘高校の剣道部員に、「いじめについてどう思っているか」をインタビューしました。いじめられた側になった経験がある子、いじめた側になった経験がある子の両方の立場から色んな意見が出ていたため、インタビューの最中も考えさせられていたようでした。「いじめが目の前で起こっていたらどうするか？」という質問に対し、「止める」「助けてあげる」などの答えが多かったことについて、「私なら、そんなことできないかもしれないから、本当に止められるのか？と思う。」と行っていました。「止める」「助けてあげる」という言葉だけでなく、もう少し本音が聞ければよかったとも言っていました。

2 月 20 日、27 日映像編集

撮影していたインタビュー映像を編集しました。いじめられた側になった経験がある子、いじめた側になった経験がある子の経験談や、「もしもいじめを見たらどうするか？」などの印象に残った部分を切り取り、6 分程度の映像に編集しました。

2 月 25 日　実施「本音トーク」

洛陽工業高校の生徒会のメンバーと、「いじめについてどう思っているか」をディスカッションしました。いじめる側になった経験がある子は、その立場だからこその苦悩なども話してくれて、「楽しくはなかった。」という言葉が印象的でした。いじめられた側になった経験がある子は、どんなことをされて、その時どんな気持ちだったかということを詳しく話してくれました。いじめられた側になった経験がある子は今でも心の傷があることを知り、改めていじめはいけないということを実感していました。また。いじめをなくすことは簡単ではないということも彼らは感じたようでした。それでも彼らからは「いじめを少しでもなくすためには、クラスで隔てられている学校の環境を変えるべきではないか」といった仮説が出ました。

防災チーム活動報告

※防災チームの高校生は、興味のある問題が異なったため、それぞれで企画を作りました。

フィールドワーク

阪神淡路大震災の体験談を聞く時間と、自分の大切なもの、人を守るためにどんなことができるかを考えるワークショップの時間がありました。阪神淡路大震災を経験していない高校生たちにとって、「防災＝避難訓練」のイメージから「防災＝大切なものを守るためにすること」というイメージに変化しました。

川﨑茜さん

11 月 10 日　テーマ決め

震災で助かったにも関わらず、ストレスが原因で死亡する震災関連死で亡くなる人が少なくないことに驚き、「なぜ、過去の震災の教訓を活かせていないのか」という疑問を抱いていました。

山崎拓実くん

11 月 17～18 日　企画立案合宿

テーマの「防災」に関して困っている人やものがイメージできず、合宿 1 日目の午後までは、もやもやする時間を過ごしました。ですが、震災直後のまちの様子をみんなでイメージし、その時誰がどんなことで困っているかを想像しました。すると、「狭い道には、瓦礫が散乱し、救急車が通れないと高齢者が困る」「京都の古い町家は、耐震できずにすぐに倒れてしまうんじゃないか」などの意見が出てきました。

12 月 6 日　フィールドワーク②

合宿を経て、震災時のまちの様子に興味を持ったことから、京都市消防局の方にお話を聞かせていただきました。

12 月 16 日　スクーリング

防災に関する企画づくりに到達していなかったので、ユース ACT プログラム実行委員会のみなさんから「考えるだけでなく、何か興味を持ったものに取り組んでみたらどう？」というアドバイスをいただきました。

ミーティング

スクーリングでのアドバイスを受けて、まずは高校生の興味があることを整理しました。震災関連死について調べたり、自分のまちの避難所がどこにあるかをインターネットの地図サイトで見てみたりしながら、思うことを話し合いました。話は非常食にも広がり、非常食のサイトを見ていると、2 人とも興味を持ち始めたので、みんなで非常食を食べてみることを決めました。

川﨑茜さん　　**山崎拓実くん**

DVD 鑑賞＆非常食パーティー

阪神・淡路大震災に関する特別企画で作成された映画「その街のこども」を鑑賞しました。また、高校生とスタッフで選んだ非常食を一緒に食べる時間を設けました。一度アクションを起こしてみましたが、非常食に関連する次のアクションは見つかりませんでした。今までにそれぞれ興味を示していたものがあったので、次のミーティングで興味をもっていることを丁寧に掘り下げることを決めました。

ミーティング

山崎くんが、いつも通る自宅周辺の道を「災害が起こった時危なくないか」という視点で歩いていたことがわかりました。地域の道の狭さや、住宅の老朽化が気になっている様子だったので、自宅周辺を一度スタッフと一緒に歩いてみることを決めました。

ミーティング①

今までに興味を持ったことを丁寧に整理する中で、震災関連死についてさらに詳しく調べてみることを決めました。

2月7日　実施「まち歩き①」

山崎くんが「震災が起きたら崩れそうだ」と危険を感じていた木造住宅などを確認しながら、地域の避難所にも足を運びました。ふりかえりでは、「道の細さ」や「崩れそうな家」など、自宅周辺の危険について関心を寄せていることがわかり、自宅周辺（嵯峨野学区）の自主防災団の方に協力いただいて再度フィールドワークを実施することを決めました。

ミーティング②

「震災関連死」についての関心をより具体化するために、震災関連死の原因や人数、「避難所の運営方法の変化」について調べてきた結果を共有しました。阪神・淡路大震災に比べ、東日本大震災では震災関連死で亡くなった方の数が増えていることに驚き、過去の災害で震災関連死が発生した原因をきちんと分析をして活かしきれていないのではと疑問を感じていたようでした。また、自宅周辺のまちではどんな対策が取られているのかに興味がわいたことから、活動終了後も地元のまちの方にお話を聞く機会を設けることを確認しました。

2月20日　実施「まち歩き②」

事前に「住民は避難経路を知っているのか？」「震災時に崩れそうな建物がある道に緊急車両は通れるのか？」などの質問を整理しました。当日は、嵯峨野学区の防災の取り組みについて自主防災団の方から聞きながら、まち歩きを行いました。小学生の時から住んでいるまちにも、防災倉庫が町内分用意されていたり、通っていた小学校にあるビオトープが非常時に飲料水になったりすることを初めて知ったようでした。また、学区内で防災訓練に参加している人が、予想しているよりのかなり多かったことにも驚いている様子でした。また、この時山崎くんは活動開始直後に比べて感想をすらすらと言えていて、自分の意見を人に伝えられるようにも変化していたようでした。

報告会

3月1日（金）18:30～20:00@ひと・まち交流館 京都で報告会を行いました。当日は、学校の先生やこのような活動に興味のある大人や学生の方々に来ていただきました。10 人程度のグループに分かれて、活動内容だけでなく、参加した理由、楽しかったこと、大変だったこと、活動を通して変わったことなどを高校生たちが発表しました。

防災チームは、模造紙やフリップを使いながら４ヶ月間でやってきたこと、その時に感じたことを発表していました。いじめチームは作成した映像を見せながら、インタビューを行うことで気がついたことを発表したり、本音トークを経て自分が考えるいじめの解決策を発表していました。

楽しかったことは「企画立案合宿やインタビュー」だったという声や、大変だったことは、「防災チームとして取り組む課題が決まらなかったこと」などが挙げられ、「お互いに協力し合うことが大切だと感じた」と話していました。

参加者から「活動してみてどんな変化があった？」と聞かれて「活動する前は、いじめられる側が悪いと思ってたけど、そうでもないなと思うようになった」とテーマについての考え方の変化について話す場面がありました。

「いじめを解決するためには学校環境を変えることが大切ではないか」と「本音トーク」を通じて発見したことを、参加者に堂々と話している姿も見られました。また、参加者から、「いい発見をしたんだね」という言葉を返してもらったことで、高校生は達成感を感じられたようでした。

高校生の BEFORE& AFTER

参加前と参加後の高校生の声です。

BEFORE

いじめられてる人も悪いんちゃう？

防災のこと、あんま知らんし…。

人前で発表するの苦手…。

最近はニュースを見ると
考えるようになった。

先生に言われて来た。

学校の環境変えたら、
いじめ減るんちゃう？

ニュースを見ても
あまり興味がない。

避難所について
詳しく知っている人に、
話を聞きたい。

3.11 を受けて、どういう防災対策が
出てきたかを聞いてみたい！

「いい発見をしたんやね」って
言ってもらえて嬉しかった！

自分のやってきたこと発表して
めっちゃ達成感ありました！

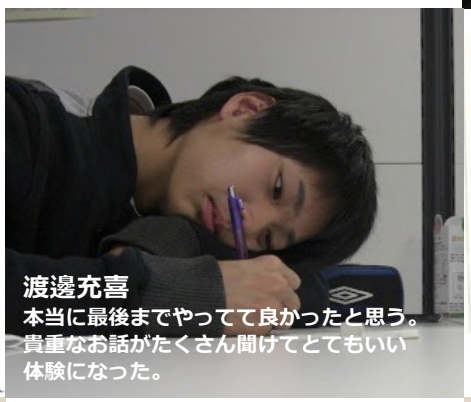
AFTER

高校生の感想

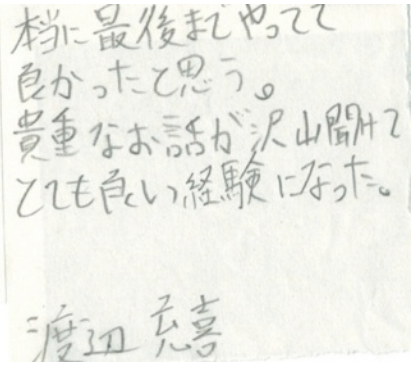
いろいろと大変だったけれど
やりがいがありました。
川崎茜

川﨑茜
いろいろと大変だったけど、やりがいがありました。

大変だったけど、
色々勉強になったし
いじめに対しての考えも
より深まったと思います
鷲田千咲



渡邊充喜
本当に最後までやってて良かったと思う。貴重なお話がたくさん聞けてとてもいい体験になった。



鷲田千咲
大変だったけど、色々勉強になったし、いじめに対しての考えもより深まったと思います。

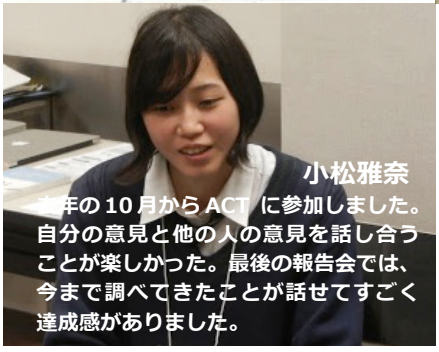
中東
やって楽しかったし
またやってみたり。
ただ、人がもっと
あつまってほしい。

中東優敏
やってて楽しかったし、またやってみたい。ただ、人がもっと集まって欲しい。

去年の10月からACTに
参加しました。
自分の意見と他の人の意見を
話し合うことが楽しかった
です。
最後の報告会では、今まで
調べてきたのが話せて
すごく達成感ありました

山﨑拓実
学校の先生に勧められて「なんとなく…」という気持ちで参加したけど、今では「やってみてよかった」と思っている。

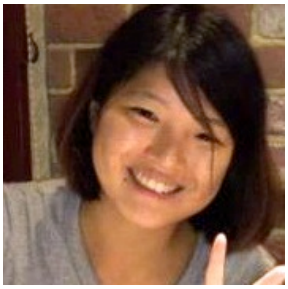
学校の先生におすすめられて
「なんとなく…」という気持ちで
参加したけど、
今では「やってみてよかった」
と思っている
山崎拓実



小松雅奈
去年の10月からACTに参加しました。自分の意見と他の人の意見を話し合うことが楽しかった。最後の報告会では、今まで調べてきたことが話せてすごく達成感がありました。

藤上郁弥

大学生の感想



立命館大学・３年　井上 栞（いのうえ しおり）

今年特に気を付けたことは、高校生に寄りそうことでした。プログラム通りに進めることを優先するのではなく、参加した高校生に、いま必要なことを大学生スタッフで考えることに気をつけました。気をつけたことが高校生に伝わらず、なかなか活動が前に進まないこともありましたが、最後に高校生がアクションを起こすことができた時は、大学生スタッフの思いが高校生に伝わり、うまく活動が進んだ結果だと思いました。

立命館大学・２年　長坂 華奈絵（ながさか かなえ）

ボランティアでやることのイメージは何ですか？チーム ACTeer では実際に高校生と企画に関わる面、それだけではなく広報や企画運営、助成金などの裏方までたくさんの事を経験できる、それが魅力だなと欲張りな私は思います。スタッフになって 2 年が経ち、今年も様々な感性を持つ高校生に出会えました。運営面においても去年以上に責任があり、先が見えない不安などつらい時期もありましたがスタッフの皆と高校生の笑顔があったから乗り越えられた、そんな達成感が今はあります。ありがとうございました。

龍谷大学・２年　村尾 航平（むらお こうへい）

ACT の活動はボランティアといえど、ゴミ拾いのように目に見えてすぐに何かが変わるものではありません。なので、この活動は何の為にやっているんだろうと思うこともありましたが、今は高校生の色々な成長が見れたので本当によかったと思っています。ACT の活動をやり遂げた彼らが、いつか京都のまちを、そして社会を変える主体となってくれることを願っています。高校生を、そして自分自身を変えるきっかけ与えてもらえたことを感謝します。

立命館大学・１年　瀧本 愼也（たきもと しんや）

去年高校生で ACT に参加したのがきっかけで今年は大学生スタッフに。高校生の時に見ていた景色とは違ってとても大変なもので、しんどいと感じてしまう日もありました。でも高校生と出会ってからはこの時の為に、今まで苦労していたんだなと実感し、納得できるものでした。自分が高校生だった時に大学生は頼りになる、居てくれて安心できるイメージでした。なので今年高校生と関わるときには大事にしようと考えていましたが、実際にそうなっていたのかがとても気になるので、また会った時にでも聞いてみたいなと思いました。活動が終わった今、前のように高校生たちと会えないのが唯一残念です。

活動に関わった方のコメント

「School of ACT」に関わってくださった方の中から 3 人の方にコメントを頂きました。

三波 要 さん

（右京区自主防災会連絡協議会会長、嵯峨野学区自主防災会会長）

一昨年の東日本大震災から「防災・減災」の取り組みが地域で見直されるようになりましたが、過去の地震の影響が少なかった京都のまちでは、このような取り組みに対する市民の意識が希薄であることが我々自主防災団の課題でした。今回の School of ACT で山崎君のように、「自分のまちはどうなるんだろうか。」と興味を持ち、話を聞いたり、まちを実際に歩いたりすることが改めて大切なことだと気づかせてくれました。また、このように若者にも地域の防災活動に参加してもらいたいと強く思うようにもなりました。自分自身から行動した山崎君には敬意を表したいと思います。

勝村 尚代 さん

（学生 Place＋コーディネーター、ユース ACT プログラム実行委員会実行委員）

今年度の大学生チームは転換期を迎えました。実行委員の意見とこれまで関わってきた高校生たちを見て、「昨年までのやり方ではダメだ」「高校生のニーズに合っているのか？」と具体的に答えが見えていたわけではないかもしれませんが、違和感から変化することを選びました。「チーム ACTeer」という学生チームをつくり、社会のニーズと高校生の現状に向き合い、こんな高校生が増えてほしいと未来を見据えた目的を考え、目標を選択し、手段を選んでいきました。答えのない新しい世界に進もうとする道は、とても勇気がいると思います。プログラムを動かしている最中、葛藤や迷いがたくさんあったと思います。ですが、学校という枠を超えて、社会の中で自分たちに出来ることを考え、失敗や成功を繰り返しながら一定の成果を生みました。自分たちがつくったプログラムに責任を持ち、社会の中で社会の一員として活躍してきた、そんな彼らを見てきて、私はとても心強く感じました。ますますの活躍を期待せずにはいられません。これからも応援しています。

鈴木 陵

（ユース ACT プログラム実行委員会　事務局長）

2012 年度のユース ACT プログラムは、大学生中心のプロジェクトチーム「ACTeer」が企画運営・プログラムのフレームづくり・参加者募集・プログラム提供までを担うことにチャレンジした年でした。特に今年は高校生の抱いた疑問や関心をつかみ、その手応えを手がかりに前に進むことの大切さに、小さなアクションを重ねる中で気づいていった年であったように思います。参加した高校生の皆さんは、活動や企画の「進み具合」や「できばえ」だけでなく、その過程で出会ったこと・感じたこと一つひとつを大切にしてもらえればと思っています。そうした体験の中から、何か今後の暮らしにつながるものが得られた機会であったなら嬉しく思います。今年度の実践の中から様々な成果や課題が見えてきましたが、これらを今後の実践の糧にしていくことができればと考えています。

発行者：ユース ACT プログラム実行委員会チーム ACTeer
住　所：〒600-8216 京都市下京区西洞院塩小路下る キャンパスプラザ京都 1 階
　　輝く学生プロジェクト「学生 Place＋」メールボックス No.1
メール：youthact.kyoto@gmail.com
ＨＰ　：http://acteer.jimdo.com
後　援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会
助　成：平成 24 年度輝く学生サポート助成 事業助成コース、京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金

本報告書は「京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金」を受けて発行しました。